



「旧川越織物市場」が建つ立門前界隈は、かつては蓮馨寺を中心とした活気あふれるスポットとして、多くの人が行き交いました。現在もここは駅前と蔵造りの町並みを結ぶ中間点として注目されるエリアです。今回はこの立門前界隈をよく知る3名の方に、地域の魅力と生まれ変わる旧川越織物市場への期待についてお話いただきました。

座談会

織りなす川越

—モノ・マチ・ヒト—

座談会参加者

西澤 堅 (にしざわ けん) さん

川越ロータリークラブ
公共イメージ委員会委員長
(国際ロータリー第2570地区)
元松江町2丁目自治会元会長

長きにわたり旧川越織物市場の保存・活用に尽力。ロータリークラブでは、2020東京五輪を契機に「選ばれた都市川越の魅力とおもてなし力」を自身が広告塔となって全国へ発信。現在、都内の業務系システム開発・レンタルオフィス運営会社の代表取締役社長。

糸原恒久 (くめはら こうきゅう) さん

公社・小江戸川越観光協会会長
蓮馨寺代表役員

創建から約470年の蓮馨寺第48代住職。街の人々の生活を応援したり楽しんでもらうための催しに蓮馨寺の境内を開放。長きにわたり、市民生活を応援する寺として周辺の街づくりに尽力。小江戸川越観光協会の会長として、「川越の和の文化と人の輪が融合し、新しいことに挑戦できる希望の街」を唱え、全国へ情報発信。

岩井悦子 (いわい えつこ) さん

川越商工会議所女性会副会長
老舗芋菓子店「芋十」女将

所有する明治19年創業の老舗芋菓子店の建物は市の歴史的建造物に指定。商店街では「立門前通りのママさん」と呼ばれ、その人柄と建物がセットで立門前界隈のおもてなし的役割となっている。商店街での活動では、いつでもだれでも気軽にきてほしいとの願いから「しゃべりにおいでよ ほっと一息 くつろぎ通り」のキャッチフレーズを考案。



旧川越織物市場とは

明治43年(1910年)に織物を扱う施設として開設された「旧川越織物市場」。当時は定期市が開かれるなど地域と密接にかかわる場として賑わいました。希少性の高い産業遺構であるこの建物を、創作活動や定期市、ワークショップなどを開催するための“文化創造インキュベーション施設”として活用。この場に集まる多様な才能が川越の文化や歴史と交わり、新しい文化が育まれるよう、周辺地域との連携やヒトとヒトとのつながりをこれから築いていきます。



活気と人情のある 立門前界限から 新しい文化の創造を

旧川越織物市場や 立門前界限の思い出

西澤さん 小学校の頃、織物市場でラジオ体操をやっていてシャツ1枚で通っていました。みんなが集まるまちの憩いの場で、大人が子どもへ愛情を注いでくれた場でもあったと思います。学校から帰るとベーゴマやメンコをやりにいきましたね。

岩井さん 私は子どもの頃、蓮馨寺さんの境内でよく遊ばせてもらいました。日曜にはお話会があり、楽しかったです。50数年前に立門前通りに嫁ぎましたが、あの頃の通りは浅草の仲見世のような活気があって、毎日ワクワクしました。



糸原さん 織物市場のあったこの地域は、古くから蓮馨寺を中心に人々が集まってきました。私が子どもの頃も、サーカスや大相撲の地方巡業などが境内で行われ賑やかでした。立門前通りには母に頼まれて夕飯のおかずを買いにいった記憶があります。

西澤さん ますやさんですね。私も佃煮とかそういったものを買いにいきました。ほかに額縁屋さんなどもあり、立門前通りでだいたいのものが揃いました。立派な商店街でした。近年では織物市場で夕涼み会やマルシェなどを開いて、まちの人たちみんな楽しんでたことがいい思い出です。

糸原さん この辺りは飾らない地域として長い間、まちのみなさんのよりどころですね。庶民の温かい心が流れる観光地でもあるわけです。

現在の立門前界限の魅力や 今後の地域への想い

岩井さん そうですね。蔵造りの町並みの一番街はとても賑わっていて、観光客の方

が向こうから立門前通りにやってくると「ホッとする」というんです。蓮馨寺さんの境内で休んだり、店の前の縁台に腰かけたり。まちの歴史などをお話すると「またきます!」とってください。そういったことが励みになっています。

糸原さん 私は埼玉県内の教会の中で「お寺をもっと地域の人たちに開放していこう」と呼びかけています。生まれ育った蓮馨寺が昔から誰でも自由に入れる寺で、呑龍上人という社会事業の先駆者の方を祀っていることもあり、あらゆる人に寄り添う姿勢が原点にあるのです。

岩井さん 蓮馨寺さんを中心に立門前通りにかつての賑わいが戻るといいですね。織物市場が完成すれば多くの人がやってきて、通りに活気も出ると思います。

西澤さん ここは一番街、喜多院、そして駅との中心的な場所ですどこにでもいけますし、観光でちょっと休みたいと思ったときに一息つける場所でもあります。

糸原さん そうですね。川越には観光スポットが点在していますが、この地域を中心にそれを線で結んでいけると観光地としての魅力もより一層上がるのではないのでしょうか。

西澤さん いいですね。文化や芸術を盛り上げていくのに、この辺りはふさわしいスポットです。

岩井さん 立門前通りに「しゃべりにおいでよほっと一息くつろぎ通り」というキャッチフレーズを考えたのですが、この界限にたくさんの方が足を運んでくれるとうれしいです。

生まれ変わる旧川越織物市場と そこに集まる人たちへの期待

西澤さん 多くの観光地では新たに建物な



どをつくって人を集めます。しかし、川越には江戸から令和までその時代に生きた人たちの生活にあったものが観光となっています。京都や鎌倉のような雰囲気があるのです。ここに織物市場のような産業遺産が蘇り、文化創造インキュベーション施設となって、川越の伝統や文化を伝えることができれば素晴らしいことです。



糸原さん 市場建築特有の小部屋を活かして作家さんが入るそうですが、市内や県内に限らず、いろいろなところから集まってきたいただきたいですね。城下町はガードが固いといいますが、逆に一定期間入居し、馴染んでいけば応援してくれる土壤です。

西澤さん グローバルな川越にしていくには、海外からも大歓迎です。川越のまちの考え方や在り方に共鳴してくださる人に入ってきていただき、刺激を与えていただけるといいですね。そしてやってきた作家さんたちがつくったものを売るような仕組みづくりも必要です。

岩井さん そうですね。広場で月に1度、作品を展示販売したり、そのときに一緒に食べ物を売ったり商店街でくつろいだり。可能な限りいろいろと柔軟に対応できるといいですね。

西澤さん 住民の方々にも理解や応援をもらって運営をしていくことが大切です。地域に溶け込む施設の見本となることを期待しています。

糸原さん そのためには施設の意図を正しく発信して、多くの人に理解してもらうこと。川越の力になる新しい人材を育てるのであればみなさん大賛成でしょう。

西澤さん 行政も含めて、一緒に文化をつくりあげていく、そういう姿勢が大切です。みんなが信念をもって一生懸命やっていくといいですね。

